

製品名: UBE1L ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19516**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	112kDa

抗原情報

遺伝子名	UBA7
別名	UBA7; UBE1L; UBE2; Ubiquitin-like modifier-activating enzyme 7; Ubiquitin-activating enzyme 7; D8; Ubiquitin-activating enzyme E1 homolog
遺伝子 ID	7318.0
SwissProt ID	P41226
免疫原	抗血清はヒト UBE1L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 963-1012

背景

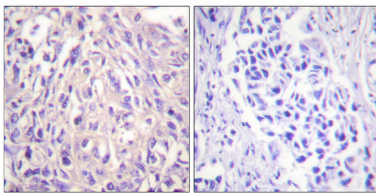
ユビキチンによるタンパク質の修飾は、異常なタンパク質や短寿命タンパク質を分解対象とする重要な細胞機構です。ユビキチン化

には、少なくとも3種類の酵素、すなわちユビキチン活性化酵素 (E1)、ユビキチン結合酵素 (E2)、そしてユビキチンタンパク質リガーゼ (E3) が関与します。この遺伝子は、E1 ユビキチン活性化酵素ファミリーに属する酵素をコードしています。コードされている酵素はレチノイド標的であり、急性前骨髄球性白血病において前骨髄球性白血病 (PML) /レチノイン酸受容体 α (RAR α) の分解とアポトーシスを誘導し、ユビキチン様インターフェロン刺激遺伝子 15 タンパク質の結合に関与しています。 [RefSeq 提供、2008年7月],機能:ユビキチンを活性化するには、まずATPでC末端グリシン残基をアデニル化し、次にこの残基をE1のシステイン残基の側鎖に結合させて、ユビキチン E1 チオエステルと遊離AMPを生成します。、その他:E1分子内には2つの活性部位があり、一度に2つのユビキチン部分を収容できます。新しいユビキチンは、前のユビキチンがチオール部位に転移されるときにアデニル化中間体を形成します。、経路:タンパク質修飾、タンパク質ユビキチン化。、類似性:ユビキチン活性化 E1 ファミリーに属します。、サブユニット:モノマー (類似性による)。 G1P2/ISG15 に結合し、その共役に関与する。、組織特異性:さまざまな正常細胞および腫瘍細胞型で発現するが、肺癌細胞株では減少する。、

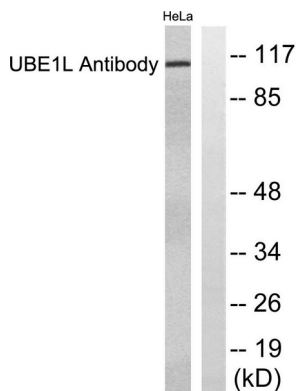
研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

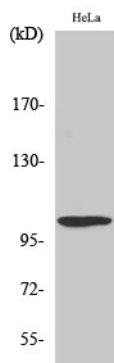
画像データ



UBE1L抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



UBE1L抗体を用いたHeLa細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



UBE1Lポリクローナル抗体 (1:2000希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は1:20000希釈。

